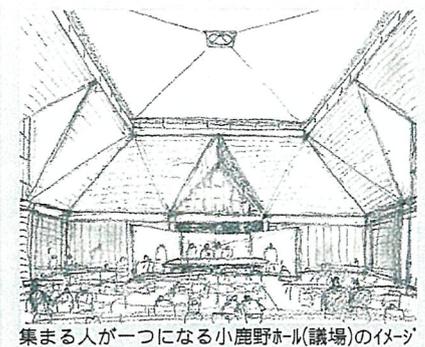
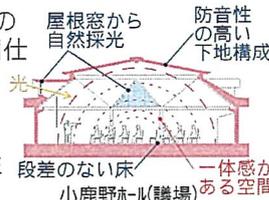


### 小鹿野町のまちづくりとひとづくりの核となる新庁舎

#### 小鹿野町のまちづくりの核となる「小鹿野ホール(議場)」

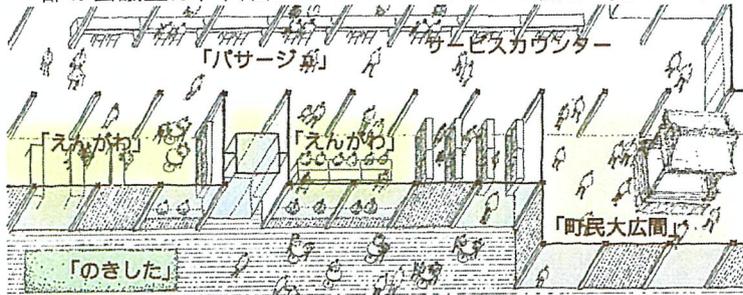
- ・ 議会閉会時には、町民が利用できるように整備
- ・ 用途に応じて、パサージュ(共用スペース)への開放の度合いがコントロールできるようなつくり(可動壁、スクリーン、ガラス扉・壁)
- ・ 気軽に利用できる町民大広間に対し、小鹿野ホール(議場)は、式典や重要会議などの格式の高い会合に適した場所とし、空間の質や設備仕様を町民大広間と差別化
- ・ 町産材による木材架構を象徴的に組む
- ・ 吸音性を高め、高い明瞭度の音環境づくり
- ・ 音を出すイベントに対応できるように遮音性(D50~55)も確保
- ・ 防音仕様の個室を用意し、子連れでも気兼ねなく傍聴できる



集まる人が一つになる小鹿野ホール議場のイメージ

#### 出会いと発見、交流の場となる「えんがわ」と「のきした」

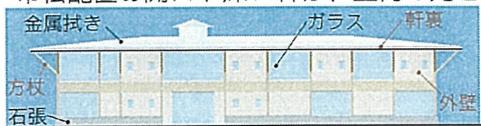
- ・ パサージュに沿って、地域に関する情報コーナーや図書館、近隣学校/商店街/商工会などのサテライトコーナーを設ける
- ・ 建物周囲の軒下には、人々が休憩できる豊かな場所を整備
- ・ カウンター席は自習スペースとして最適な場所となり、一部の会議室は、自習室やセミナー室として活用可能なつくり



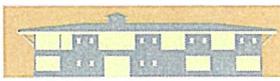
「パサージュ」「えんがわ」「のきした」が連続するイメージ

#### 街並みづくりの起点となる、新庁舎の豊かな木の表情

- ・ 外装材は、小鹿野町の風景に馴染む自然素材(町産材や左官材)
- ・ 市松配置の開口や深い軒が、室内の光を捉え、美しい夕景を演出



外装材活用の例



建物が灯りとなるイメージ

着色したパース等の視覚的表現のため、実施要領11(3)の規定により、見えない状態とした

### 豊かな自然環境を活かし、環境負荷を最小化した次世代型省エネルギー庁舎を実現

#### 自然環境への意識を高めるデザイン

- ・ 方杖が木造らしさを示す
- ・ 内外装材に積極的に木を使用
- ・ 薪ストーブの設置を検討
- ・ 簡易BEMS(ビルエネルギー管理システム)を採用し自然エネルギーの利用状況を可視化

#### 自然エネルギーを最大限活用

- ・ 太陽光/風/雨水/地熱/木材を積極的に利用



#### ライフサイクルコストの削減

- ・ イニシャルとランニングコストのバランスを考慮し、修繕管理が容易で扱い易く、汎用性の高い設備

#### 高气密・高断熱化で環境負荷を低減

- ・ 外皮(屋根/外壁/床)に高性能断熱材を使用。自動扉上部には、エアカーテンを設け、熱損失を防止

#### 設備機器の省エネルギー化

- ・ 省エネ機器や高効率機器により光熱水費を抑制。

